

4 条約改正, 日清戦争

1 条約改正

1 帝国主義 19世紀後半, 資本主義が発展した欧米の列強(イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ・ロシア)は資源や市場を求めてアジアやアフリカを軍力で植民地とする。この動きを**帝国主義**という。

2 条約改正の実現 条約改正を達成し, 欧米と対等な関係を築くため, 日本は法律の整備などの近代化政策を進める。

(1) 欧化政策 外務大臣の井上馨は鹿鳴館で舞踏会を開く。大隈重信による領事裁判権に関する交渉内容に国内の激しい反対が起こって失敗。

(2) ノルマントン号事件 条約改正を求める国民の声が高まる。⇒1

(3) 領事裁判権の撤廃 日清戦争直前の1894年, 外務大臣の陸奥宗光が, 日英通商航海条約を結び, 領事裁判権の撤廃に成功。

(4) 関税自主権の回復 1911年, 外務大臣の小村寿太郎が, アメリカとの間で関税自主権の完全な回復に成功する。

3 東アジアの情勢 朝鮮半島では, 日本と清が勢力を争う。清の勢力が強くなると, 日本は軍備増強を図る。ロシアなど列強のアジア進出に對抗するため, 日本も朝鮮に進出しようという主張が強まる。⇒2

2 日清戦争

1 日清戦争

(1) 戦争の経過 朝鮮では, 日清両国が対立する中, 1894年, 東学を信仰する農民を中心に**甲午農民戦争**が起こる。朝鮮政府が清に出兵を求めると, 日本も出兵し, **日清戦争**が始まる。日本が勝利する。

(2) 下関条約 1895年に講和会議が開かれ, 下関条約を結ぶ。⇒3

①清は朝鮮の独立を認める。②遼東半島・台湾・澎湖諸島を日本にゆずりわたす。③賠償金約2億両を日本に支払う。当時の価値は3億円。国家予算の約3倍。現在は300兆円に相当。

2 三国干渉と朝鮮半島の動き

(1) 三国干渉 ロシア・ドイツ・フランスが, 遼東半島の返還を日本に勧告→対抗できない日本は受け入れる。

(2) 朝鮮半島 朝鮮は清からの独立を宣言し, 国名を大韓帝国(韓国)と改める。

3 列強の中国分割 清の弱体化を見た列強は, 港湾の租借権, 鉱山の開発権, 鉄道の敷設権を手に入れる。ロシアは遼東半島の旅順と大連, ドイツは山東省の膠州湾, イギリスは九竜半島・威海衛, フランスは広州湾などを清から租借。⇒4

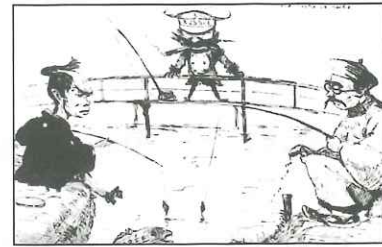
4 日清戦争後の日本 ロシアへの対抗心が高まり, 政府は賠償金を元に軍備拡張や工業化を進める。政党の協力が必要になり, 伊藤博文が結成した立憲政友会が力を伸ばす。

1 ノルマントン号事件



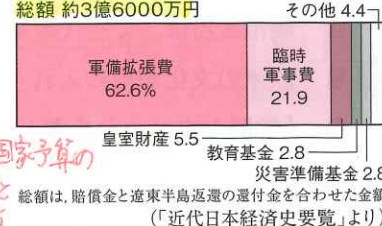
1886年, イギリス船ノルマントン号が和歌山沖で沈没した際, イギリス人船長と乗組員は全員脱出したが, 日本人乗客は全員水死した。イギリス人船長は領事裁判で軽い罰を受けただけであった。

2 魚つりの会

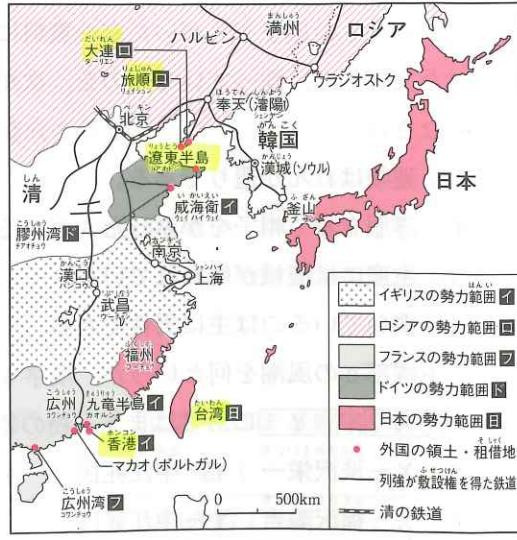


日清戦争直前の国際関係を風刺した絵で, 清と日本が, 魚(朝鮮)をつり上げようとしているのを, 橋の上からロシアがねらっている。

3 賠償金の使いみち



4 列強の中国分割



1858年 日米修好通商条約

一番悪い 治閑条約

1895年 独口